

【開催報告（国際研究連携、インドネシア）】

第 7 回共同ワークショップ及び第 3 回国際シンポジウムを開催しました

インドネシア国公共事業省道路・橋梁研究所 (RDCRB) 及び国総研は、平成 24 年（2012 年）6 月 5 日～7 日にかけてインドネシア国バタム島内において、「第 7 回共同ワークショップ（以下、「WS」という。）及び第 3 回国際シンポジウム」を開催しました。

（開催内容）

今回は、前回 WS に引き続き「橋梁等構造の建設管理と保全システム構築に関する研究連携」に関する WS を開催することに加えて、研究連携のための長大橋梁建設等技術に関する国際シンポジウムを共催する形で行ないました。本国際シンポジウムの企画は、前回の WS 時における先方から提案に基づき、東京大学や関連民間団体等との連携の下で実施されたものです。

参加者は、日本側から国総研研究者の他、（独）土木研究所、東京大学、JICA、関連民間技術者等が参加し、インドネシア側から公共事業省ヘルマント・ダーダック副大臣他、RDCRB 等から合わせて約 150 名が参加しました。

（今回の成果）

共同 WS では、分野別セッション（橋梁及びトンネル）において、国総研、（独）土木研究所及び RDCRB の実務者が研究連携に関するロードマップの進捗確認並びに具体的研究の進め方について議論を深め、橋梁に関しては橋梁等構造の建設管理と保全システム構築に関する研究連携について、トンネルに関してはインドネシアで初めてとなる道路トンネルの建設基準に関するもので、より詳細な研究の計画を関係者間で共有する目的で行なわれました。

また、公開国際シンポジウムでは、現地関係機関（大学、地方政府等）及び日本からの参加者（大学、民間企業）が基調講演及び分野毎のプレゼンテーションを行ない、長大橋梁やトンネル技術等に関する発表を行ないました。本シンポジウムの中で日本が有する維持管理技術や最新技術を紹介するとともに、それらの技術を共同研究でもってインドネシア国への気候や風土、現地材料等にいかにして適応できるかの可能性についても議論を行ないました。



写真 国際シンポジウムの開催風景

(今後の展開)

本年6月下旬にインドネシア・ベトナムの両国の研究者と合同で中間報告会 WS (開催国: 日本) を開催する予定です。各研究連携ロードマップの進捗状況等についての発表・討議を行い、情報及び知識の共有を図りつつ、研究連携を更に進展させていくことを目指しています。

※開催の経緯

インドネシア国公共事業省道路・橋梁研究所 (RDCRB) 及び国総研は、2009年11月に交わした道路及び交通分野における国際研究連携に関する覚書に基づき、これまで6回にわたってインドネシア国 RDCRB と共同でワークショップ及び国際シンポジウムを開催しています。

- 平成 21 年 6 月 連携意向/研究ニーズ調査会合 (ジャカルタ、バンドン)
- 平成 21 年 11 月 公共事業省研究総局道路・橋梁研究所 (RDCRB、旧名 IRE) との研究連携覚書締結
- 平成 22 年 3 月 第 1 回 WS 開催 (バンドン) 副大臣ほか約 200 名参加、研究連携分野の特定
- 平成 22 年 6 月 RDCRB 所長他来日 (10 月開催の国際シンポジウムの事前調整会議)
- 平成 22 年 10 月 第 1 回国際シンポジウム (第 2 回 WS) 開催
気候変動・道路環境に関する研究連携に関するアジア太平洋シンポジウム共催
(バリ、7 各国参加) 研究プロジェクトの特定
- 平成 23 年 1 月 第 3 回 WS 開催 (ジャカルタ) 「研究ロードマップ合意 I」
- 平成 23 年 6 月 第 4 回 WS 開催 (スラウェシ) 「研究ロードマップ合意 II」
- 平成 23 年 9 月 Study Tour in Japan 開催 (実験施設の現代化調査)
- 平成 23 年 10 月 第 2 回国際シンポジウム (第 5 回 WS) 開催 (マタラム) 進捗発表/共有等
- 平成 24 年 3 月 第 6 回 WS 開催 (バンドン) 「研究ロードマップ合意 III (改定含む)」
- 平成 24 年 6 月 第 7 回 WS 開催 (ジャカルタ・バンドン) 「研究ロードマップ合意 IV (改定含む)」

以上